

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02456

研究課題名（和文）日本におけるボードレール受容の総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Study of Baudelaire's Reception in Japan

研究代表者

北村 卓（Kitamura, Takashi）

大阪大学・言語文化研究科（言語文化専攻）・招へい研究員

研究者番号：70161495

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：20世紀初頭、初めて日本に紹介されたとき、ボードレールは悪魔主義的とされ、耽美主義の象徴と見なされていたが、それ以降、詩人のみならず、反自然主義に属する永井荷風、谷崎潤一郎、芥川龍之介をはじめ、多くの作家の文学創造に多大な影響を与えてきた。本研究では、ボードレールの受容が作家たちの創造行為とどのようにかかわったのかという観点から、明治から現代に至るまでの日本におけるボードレール受容の全体像を呈示した。さらに第二次大戦後では、その受容が文学や芸術の領域だけではなく、映画や推理小説からマンガやアニメに至るまで、さまざまな大衆文化の領域に浸透していることも併せて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本におけるボードレール受容の全体像を明らかにすること自体、重要な意義を有するが、受容の問題を日本における文学の新たな生成という視点から捉えるとともに、ボードレールが文学のみならず現代の日本文化の中にもどのような形で息づいているのかを問い直す本研究は、新しい比較文学・比較文化的アプローチを切り拓くものといえる。メディアが多様化する現代においては複数の文化領域を視野に収める必要があるが、本研究はその要請にも応え得るものである。さらに本研究の成果は、明治以降受容されたフランスの文学や芸術がいかに変貌し現代に至っているのかという、より大きな問題を解明するための基礎資料ともなり得ると考えられる。

研究成果の概要（英文）：It was around the beginning of the 20th century that Baudelaire and his work were introduced in Japan. Initially, Baudelaire was considered as a sign or a symbol of Aestheticism and attacked by the Naturalist group, because of its stereotyped images of being Satanic. Following this early stage, some writers in the anti-naturalist stream, like Nagai Kafu, Tanizaki Junichiro, Akutagawa Ryunosuke, and many Japanese poets began to interpret Baudelaire creatively from their own original points of view. Our study made clear this process of Baudelaire's reception in Japan from the Meiji Era to the present. Their influence was at first limited to the literary world, but gradually it spread among various Japanese cultural domains. We also pointed out that Baudelaire had infiltrated into Japanese popular cultural scenes, especially after the Pacific War, such as novels, film, detective stories, even manga and anime.

研究分野：比較文学 フランス文学

キーワード：ボードレール ボードレール受容 比較文学 フランス文学 比較文化 フランス文化

1. 研究開始当初の背景

(1) 近代日本におけるフランス文学・文化の受容に関する研究は、先駆的な試みはあるものの、多くの場合、個別的、断片的にしか対象を捉えておらず、網羅的あるいは総合的な研究の域にはいまだ達していなかった。ボードレールにおいても同様である。

(2) ボードレールについての受容研究において、ボードレールを受容した作家、芸術家の創造行為にまで踏み込んだ研究はほぼ未開拓の領域に属していた。

(3) ボードレールの受容が現代日本の大衆文化にまで浸透しているという事実がこれまで看過されてきた。

2. 研究の目的

(1) 明治以降現代に至るまでの日本におけるボードレールの受容について、断片的な影響関係の指摘にとどまらず、その全体像を呈示する。

(2) 日本の作家における創造的受容という観点から、ボードレールの受容を捉えなおす。

(3) 文学のみならず、大衆文化を含め、広く文化の創造にボードレールの受容がどのような役割を果たしてきたのかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 研究を、「ボードレール受容の端緒：明治期」、「ボードレール受容の展開：大正期～昭和期(戦前)」、「文化的文脈におけるボードレールの受容と変容：第二次大戦後」の大きく三つの段階に分け、主として通時的に受容のプロセスを明らかにした。

(2) 通時的な研究と並行して、日本におけるボードレール受容の独自性を明らかにするため、「ボードレール受容の多様性」という観点から、文学にとどまらず幅広く現代文化のさまざまな領域におけるボードレールの受容について調査、分析を行った。

4. 研究成果

本研究の成果は、大きく二つに分けられる。第一は、明治期から昭和期にかけての日本の文学場におけるボードレール受容の全体像を呈示したことである。第二は、戦後日本の文化状況のなかで、ボードレールが文学のジャンルを超え、さまざまな文化領域において受容されてきた事実を指摘し、その受容の背景を明らかにした点である。以下、この二点を中心に述べる。

(1) ボードレールの受容については、従来、萩原朔太郎や三好達治など、詩人への影響が断片的に指摘されることが一般であったが、本研究では日本の近代文学を牽引してきた作家たち、すなわち、上田敏から永井荷風、そして谷崎潤一郎、芥川龍之介へと至るボードレール受容を、それぞれの作家の創作行為への寄与という観点から照明を当てるとともに、日

本における文学創造の歴史のなかで捉えなおした。

上田敏(1874-1916)によるボードレールの紹介は、明治 20 年代後半に遡る。しかしながら、文壇の主流にあった自然主義の陣営から当初ボードレールは「悪魔主義」「病的」などのレッテルを貼られ、反自然主義の一つの記号として文壇に流通していたことが本研究によって詳らかになった。

日本の文学史上、初めてボードレールの本質に深く迫り、それを自らの芸術創造へと同化させたのは、永井荷風(1879-1959)である。とりわけ、大正 2(1913)年刊行の翻訳詩集『珊瑚集』の構成、内容が、『ふらんす物語』および『歡樂』の発禁処分(1909)、そして何よりも「大逆事件」(1910)に象徴される、言論、思想統制の時代を背景として成立していること、しかも反逆者としてのボードレールが荷風の意識と一体となった形で創造的に受容されていることを明らかにした。

次にボードレールの主題を創造の糧としたのは、荷風の推奨で世に出た谷崎潤一郎(1886-1965)である。谷崎独特とされる理想の女性(女神)に拝跪する痴人(道化)というモチーフがボードレールの散文詩から想を得ていること、さらにその構図が最初の長編小説『痴人の愛』(1924)から晩年の『瘋癲老人日記』(1961)に至るまで、谷崎の文学創造に大きく寄与したことを論証した。

また、芥川龍之介(1892-1927)についても、谷崎潤一郎との対比を軸として、「小説の筋」よりも「詩的精神」の追求を主張した晩年の芥川の姿勢が、ボードレールの受容と密接に関わっていることを示すことができた。

さらには、かつてボードレールの作品を英訳したこともあり、日本の大学の講義で初めてボードレールを取りあげたラフカディオ・ハーン(1850-1904)が、日本におけるボードレール受容の端緒となった可能性についても論及した。

(2) ボードレール研究者でもあった作家福永武彦(1918-79)の文学的主題がボードレールと密接な関わりがあるのはもちろんだが、とりわけ福永にとって重要な「幼年期」**enfance**の主題が、東宝の娯楽 SF 映画『モスラ』(1961)の原作「発光妖精とモスラ」(中村真一郎、堀田善衛と分担執筆)においても鮮明に見いだせることを証した。するとともに、映画の原作執筆に関わることにより、福永が結果としてボードレールの主題を大衆消費文化の中に移し入れることに寄与したとの指摘を行った。

次に、1968 年世代の小説家笠井潔(1948-)の長編推理小説『群衆の悪魔 デュパン第四の事件』(1996)はフランスの二月革命(1848)を舞台とし、ボードレールも重要な登場人物となっている。革命と挫折、殺人の主題など、笠井がデビュー当初から抱えている問題系が散見されるが、そこにボードレールが登場するのは決して偶然ではないこと、すなわち 1848 年の革命は 1968 年と通底し、青年ボードレールは 68 年代を生きた笠井の分身として描かれていることを詳らかにした。

さらに押見修造(1981-)のマンガ『悪の華』(2009-14)では、現代日本のありふれた小都市に住む中高生の日常の中で、ボードレールおよびボードレールの主題が、若者にとっての破壊と創造の契機として巧みに描き出されていることを指摘し、マンガという媒体を通して、ボードレールが現代の日本の若者にも広く受容されていることを示した。

日本におけるボードレールの受容は、まず明治から大正にかけて文壇を支配した強力な自然主義と、それに対抗する反自然主義との対立を軸に展開する。そこから永井荷風、谷崎

潤一郎、芥川龍之介らの作家たちによる創造的な受容が生まれた事例を呈示した上で、戦後
に至り、研究と創作、および映画への関与においてボードレールと関わった福永武彦を契機
に、近年では、その詩的世界が、単に文学や芸術の領野のみならず、推理小説やマンガとい
った大衆消費文化の中にまで浸透しつつあることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 北村 卓	4. 巻 15
2. 論文標題 谷崎潤一郎のボードレール受容に関する一考察 谷崎訳 'Le Fou et la Venus' をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 表象と文化	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 北村 卓	4. 巻 648
2. 論文標題 「翻訳と研究の融合 シャルル・ボードレール著、山田兼士訳・解説『小散文詩 パリの憂愁』(思潮社、2018年)」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 樹林	6. 最初と最後の頁 95 - 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 北村 卓	4. 巻 14
2. 論文標題 宝塚歌劇とテロリズム 近年の演目をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト2016」『表象と文化』	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 北村 卓	4. 巻 36
2. 論文標題 ボードレールと日本の文学 / 文化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 びーぐる 詩の海へ	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Kitamura	4. 巻 21
2. 論文標題 Baudelaire dans le monde littéraire japonais	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 L' ANNEE BAUDELAIRE	6. 最初と最後の頁 199-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 北村 卓	4. 巻 13
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンとボードレール	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大阪大学言語文化研究科「言語文化共同研究プロジェクト2015」『表象と文化』	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi KITAMURA	4. 巻 13-1
2. 論文標題 Perspective on Baudelaire's Reception in Japan from the Meiji Era to the Present	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 AmeriQuests	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村 卓	4. 巻 12
2. 論文標題 日本におけるボードレール受容のパーспекティブ	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト『表象と文化』	6. 最初と最後の頁 55-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村 卓	4. 巻
2. 論文標題 グローバル現象としてのボードレール受容 文学からマンガまで	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 成城大学『文化表象のグローバル研究』	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村 卓	4. 巻 -
2. 論文標題 ボードレール・ハーン・谷崎 理想の女性をめぐる	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 富山大学、国際シンポジウム「ラフカディオ・ハーン研究における新たな視点」報告書	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Takashi Kitamura
2. 発表標題 Takarazuka et la France
3. 学会等名 アリアンス・フランセーズ札幌（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村 卓
2. 発表標題 フランス、日本、そして北海道一日仏修好160周年にあたって
3. 学会等名 札幌日仏協会創立30周年記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村 卓
2. 発表標題 ボードレール研究の可能性 テクストから世界へ
3. 学会等名 大阪大学フランス語フランス文学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kitamura
2. 発表標題 La France de la Revue Takarazuka
3. 学会等名 1Ve Congres regional de la Commission Asie-Pacifique, Federarion internationale des professeurs de francais (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北村 卓
2. 発表標題 宝塚歌劇のフランス・イメージ戦略 『モン・パリ』 『ベルばら』 から現代まで
3. 学会等名 立命館大阪プロムナードセミナー「大阪・京都文化講座」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北村 卓 (+中島 淑恵)
2. 発表標題 ラフカディオ・ハーンとフランス文学
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会中部支部大会, (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北村 卓
2. 発表標題 宝塚歌劇の海外公演をめぐって 戦前から現代まで
3. 学会等名 大手前大学交流文化研究所（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 北村 卓
2. 発表標題 日本におけるボードレール受容のパーспекティブ
3. 学会等名 日本比較文学会関西支部研究例会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 北村 卓
2. 発表標題 グローバル現象としてのボードレール受容 文学からマンガまで
3. 学会等名 成城大学グローバル研究センター講演会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Takashi KITAMURA
2. 発表標題 Perspective on Baudelaire ' s Reception in Japan from the Meiji Era to the Present
3. 学会等名 International Symposium "Cultural Modernism IV: Baudelaire in Japan"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 北村 卓
2. 発表標題 ボードレール・ハーン・谷崎 理想の女性をめぐる
3. 学会等名 国際シンポジウム「ラフカディオ・ハーン研究における新たな視点」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 高馬京子、松本健太郎、北村卓 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 250
3. 書名 越境する文化・コンテンツ・想像力	

1. 著者名 Denis C. Meyer、北村卓、足立和彦、林千宏、倉方健作	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アシェット・ジャポン	5. 総ページ数 89
3. 書名 フランスを読み解く鍵 第3巻	

1. 著者名 Denis C. Meyer、北村卓	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アシェット・ジャポン	5. 総ページ数 83
3. 書名 フランスを読み解く鍵 第2巻 改訂版	

1. 著者名 岩根久、柏木隆雄、金崎春幸、永瀬春男、春木仁孝、山上浩嗣、和田章男、北村卓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 393
3. 書名 フランス文学小事典 増補版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----